+博論書式 3(論博書式 3)

2023 年　1 月　7 日

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分　野	助産学
学籍番号		院生氏名	小倉　由紀子
通学キャンパス			
論　文　題　目	看護女子大学生の「性の健康」をめざす教育プログラム作成へ向けたエビデンスの集積		
審査結果（枠で囲む）	合格　　不合格		

＜審査結果の要旨＞

1. 研究の概要

本研究は、看護女子大学生 389 名を分析対象とした研究 1 と性教育に携わる専門家を対象とした研究 2 を融合させ、新たな視点での「性の健康」を目指した教育プログラムのエビデンスを探究した研究である。 研究 1 では、性の健康をめざす重要な 6 概念（人間発達・人間関係・個人のスキル・性行動・性的健康・社会と文化）のトピック 38 項目、性的に健康なおとなの行動基準 37 項目、性的リスク対処意識 18 項目を用いてこれまでに学んだ性教育の内容と性の健康の実態を明らかにした。また、性教育に関するニーズ（自由記述）について、計量的テキスト分析を行った。研究 2 では、性教育に携わる専門家（6 つの職種計 25 名）を対象に、学生と同様の「性的に健康なおとなの行動基準」を調査し、デルファイ法（ラウンド数 3 回）を用いて性の健康教育に必要な項目を検討した。

研究 1 の量的調査では、避妊や中絶、性感染症の知識など「性的健康」に関する項目について 80%以上の学生が学べていたが、「人間関係」や性の持つ多様な意味での「性行動」など性と生殖の健康を根底とした包括的性教育は不足していることが明らかになった。自由記述の分析では、両性が共に、お互いの性について学び理解できる項目やより具体的な避妊方法など、大学生に選択肢を与え自己決定できるような支援である性教育プログラムを望んでいたことが明らかになった。研究 2 では、専門家の意見を統合し、プログラム作成に必要な 13 項目を抽出した。特に「性的健康」の自己の健康管理やプレコンセプションケアは次世代の未来をつなぐために必要な項目であることが示された。

本研究は、「性の健康をめざす重要な 6 概念」「性的に健康なおとなの行動基準」を主軸として展開し、日本における学習指導要領に包括的性教育が含まれていないことを明らかにした。また、自由記述により現在の大学生のニーズを示した。これらの結果は、性に関する活動が活発化する大学生の「性の健康」を目指した教育プログラムの作成に大きな示唆を与えるものとして高く評価できる。また、教育を受ける側・提供する側の双方向から探究している点や全国調査を実施している点などから結果の妥当性も評価できる。なお、本論文に倫理的問題はみられない。

2. 審査経過と結果

審査は、令和 4 年 11 月 30 日に遠隔を利用して実施した。プレゼンテーション後に審査員全員による口頭試問を行った。分析対象者の選定基準、分析方法の妥当性、論文内容の明確化などについて指摘があったが、質問には真摯に対応し、再修正の可能性が確認できた。修正後に論文を再提出（不十分な場合は再審査）することになった。令和 4 年 12 月 19 日に再提出され、適切に修正されており、再審査の必要はないと判断されたが、一部表現の洗練化を求めた。同月 28 日に再々提出があり、全て修正されていることを確認した。以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が小倉氏に博士（助産学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。

論文審査担当者	
	主　査　　楠葉　洋子
	副　査　　後藤　純信
	副　査　　白井　明美